紫雲丸遭難事故

命の大切さ

川津小学校修学旅行団の遭難
一九五五年(昭和三十年)五月十日は、川津町民にとって、永久に忘れる事のできない深い悲しみの日です。それは、川津小学校修学旅行団がのっていた紫雲丸が遭難した日です。二泊三日の計画で、琴平・屋島・高松の見学を終えた修学旅行団六六名(児童五八名、教師五名、保護者三名)は岡山へ向かうため、宇高連絡船「紫雲丸」に乗船しました。午前六時四十分、紫雲丸は高松を出船しました。楽しくなっている高松港を眺めながら、テープを手に、楽しかった旅行の話に熱中していました。出港してまもなく、六時五十六分、紫雲丸は第三宇高丸と衝突し、四分後に沈没しました。この事故で、川津小学校の児童二十名(男子八名、女子十二名)、教師一名、保護者二名、計二十五名が亡くなりました。九月十日、市公会堂で、松江市、松江市教育委員会、川津小学校の主催で合同慰霊祭が行われました。翌年三月十日、川津小学校の校庭に「紫雲丸遭難の記念碑」が建てられました。記念碑には、「悲しかずや 川津子らの旅のうち 二十五絞のたちまちにたえて」と刻まれています。この事故から三十三年後の一九八八年(昭和六三年)四月に、世界最長の瀬戸大橋(道路、鉄道の併用橋)が開通しました。

亡くなった子どもたちのグラフ

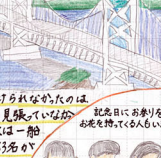
このグラフから、川津小学校だけで合計二十五名の方が亡くなられた事がわかる。

紫雲丸の へや

川津小学校では毎年度、人権教育の取り組みの中で、紫雲丸のことを取り上げて実践されています。毎年修学旅行の前には、生存者の体験談を児童に聞かせるとともに、救命胴衣の使い方の訓練を行うなど、遭難記念碑の越旨を活かす学習が行われてきました。

紫雲丸事故の原因

なぜこんな悲惨な事故が起こったのでしょうか。当時の新聞紙は「瀬戸内海での濃霧が原因」と報じ、海難審判でも濃霧の中で紫雲丸が迷いの立旅回したことが原因であるとされたようですが、果たしてそれが全てなのでしょうか。紫雲丸遭難追悼録の中でも二人の子供が延べており、他の何人かの男子児童も目撃していますが、かなりの距離があったにもかかわらず、第三宇高丸は紫雲丸目掛けて突進して来たといいます。衝突がさけられなかったのは、回船とレーダーの性さ。きりにしていて、しっかり見張っていなかったのだと言えるでしょう。さらに紫雲丸には一般乗客409名、修学旅行関係者379名、乗務員13名がのっていました。この事故による犠牲者は、一般乗客98名、修学旅行関係者108名であるのに対して、乗務員は、船長の病職を除き僅か4名だったのです。また、海難審判での第三宇高丸の証言によると「船内に紫雲丸がいたので、スピードを出して前進すれば、さけられると考えた」のだそうです。全速力で、紫雲丸にぶつかったから大事故に繋がったというのは、海の専門家である船員が何を考えていたのかと残念でなりません。人間の行為に失敗はつきものですが何よりも先ず、「人命尊重を第一」にして、行動すべきではないでしょうか。



記念日にお参りをする日には、お花を持ってくる人もいます。

紫雲丸事故から70年

悲しかずや
川津子らの旅のうち
二十五絞のたちまちにたえて
と刻まれています。

命を守る ういてまて講習会

紫雲丸事故から70年たち、具体は、アールで、ういてまて講習会がありました。ういてまて講習会では、ペットボトルやランドセルを使ってうきました。本当に見近な物でも、長い時間うけることが分かりました。アールは、水着でしか入った事しか無かったけど、ふつうの服で入る事ができて、うきにくくなったです。そして、声を出すと、しずんでしまうということを知れたので、静かに待ったほうが大切だと、分かりました。そして、ライフジャケットは、前のチャックがたいなのをとじなくてもいいから、それだけで、ういてるっていうのも知ってすごく勉強になりました。

プールびらき

犠牲者168名を出す大惨事となった紫雲丸遭難事故は、本州四国間の通行の安全と教育の面で、大きな教訓と示唆を残しました。この事故により、本州と四国を結ぶ夢の架け橋とされた、瀬戸大橋が早期完成に導かれたことは多くの人々の知る所です。また、学校教育の面でも配慮がなされ、泳げない子供たちなどが、全国の小学校にプールが設置されるようになったと言われている。

紫雲丸プロジェクト について

平成20年度

川津小学校では児童が、紫雲丸事故について学ぶ事を通して、命の重さ、大切さ、自分の生き方を考えると供に、自分たちで調べたり、伝えたりを考えたりする活動を通して、語り継いでいきたいという気持ちをもつよう取り組みを行っています。今年度は総合的な学習の時間を活用して、「記念碑チーム」「紫雲丸の部屋チーム」「空襲へ広のるチーム」「校内に広めるチーム」に分かれて、説明資料の作成やホームページによる紹介など様々な活動にとりくんでいます。

編集後記

紫雲丸の新聞を作ってみて、まだまだ知らない事がたくさんあるなと思いました。船が見に行かれて、とても残酷なことだなと思いました。船が見に行かれて、とても残酷なことだなと思いました。船が見に行かれて、とても残酷なことだ